

テーマ「別寒辺牛湿原にはどんなヒメバチが生息しているのか？」

大阪市立自然史博物館 松本吏樹郎

「ハチ」というとみなさんはどんなイメージが浮かびますか？
スズメバチ？ ミツバチ？ 刺す？ 怖い？...

確かにスズメバチ，ミツバチはハチのなかでも特に有名ですが，ハチのなかまには幼虫が葉っぱを食べたり，他の虫に卵を産み込んだりするハチもあります。私が調べているヒメバチは，他の虫やクモに卵を産みつける寄生性のハチのなかまで，日本から約 1,300 種が記録されている非常に大きなグループです。とても種類が多いので，どの場所にそれくらいの種がいるのか，そしてどのような暮らしをして



写真1. マレーゼトラップ

いるのかはほとんど分かっていません。今回は別寒辺牛湿原にマレーゼトラップという虫採り用のトラップ（写真1）をしかけて，どのようなヒメバチがいるのか調べました。北海道の湿原環境という，これまでに調査をしたことのない環境だったので，いくつものおもしろい発見がありました。

採集できたヒメバチを調べると，種名まで分かったものが 76 種ありました。大阪付近で同じようにヨシ原で調べたときには 12 種しか見つかりませんでしたので，別寒辺牛湿原にはたくさんの種のヒメバチがいることが分かります。その中には北海道だけから知られている種が，7 種含まれていました。日本から 4 頭目の記録となるヒメバチ *Townesio japonica* も見つかりました。これだけたくさんのヒメバチがいるのは，湿原が非常に大きくてヒメバチの幼虫のえさとなる昆虫やクモがとても多く，また湿原がまわりの林と連続的なので，いろいろな環境にすむヒメバチが行き来しているためと考えられました。



写真2. 採集されたヒメバチの一部。左からイワタクモヤドリフシヒメバチ，*Schizopyga circulator*，*Townesio japonica*，*Seleucus cuneiformis*

マレーゼトラップでの調査と同時に網を使った採集やクモの巣の調査も行いました。湿原では主にヨシの葉を利用してヤガタフクログモが巣を作っています。このクモの卵やクモそのものに卵を産み付けるヒメバチも見つかりました。イワタクモヤドリフシヒメバチと *Schizopyga circulator*（日本の名前はまだありません）というヒメバチで，イワタクモヤドリフシヒメバチの幼虫は集団でクモの卵のう食べてしまいます。*Schizopyga circulator* の卵はクモ



写真3. *Schizopyga circulator* の幼虫

の体に産みつけられ，孵化した幼虫もその場所にはりついてクモの体液を吸いとります。同じ場所で見られるこの2種のヒメバチが，どのように同じクモを利用しあっているのかはとても興味深いことで，今後もチャンスがあれば調べてみたいと思っています。

私たちのまわりには，体は小さいですが，おもしろい生活をしているハチがたくさんいます。ちょっと気をつけてみると，そんな生活の一部分を見ることができるかもしれません。